

西光

第 18 号

百橋山 西光寺

高岡市京町一〇一二五
電話(〇七六六)二二二九七一
FAX(〇七六六)二二二三二七〇
平成十六年九月二十三日

《この一年》

平成十五年五月三十一日六月一日に厳修された西光寺阿弥陀堂の落慶法要からはや一年がたった、この一年間は新しくなった御堂と庫裡及び広くなった境内をいかに活用するかという、新生西光寺の元年であった。落慶法要の時の楽しかった催しがきっかけとなり、その後門徒衆はもとより、近隣の町内会や関係者からの様々な提案があり、皆さんの協力のもと、大勢の参加を得て実施された。老若男女を問わず、多くの人々の集う寺でありたいという願いがまさに結実した。御仏の下に集まっているいろんなことを語り合う機会となれば幸いである。

「観月会」

九月十三日 中秋の名月を、境内に立てたすすきと周りの萩の揺れる中で鑑賞しようという試みであった。青竹の筒にすすきをたて、秋の花を境内に立花した。竹筒の行燈をあちこちに置き、名月を待った。成美町の芸術家楢原氏と自治会長幸正氏の協力を得て見事にインスタレーションができあがった。ところがあいにくの台風の来襲で、雨模様になり、残念ながら月は見えず、風に行燈は揺れた。

「名月やすすきと萩の阿弥陀堂」(読み人知らず)

一方阿弥陀堂内では映画「阿弥陀堂だより」が上映された。

「映画鑑賞会—阿弥陀堂だより—」南木佳士原作 小泉堯史

監督 加古隆音楽

主演—寺尾聡 樋口可南子 田村高廣 香川京子 北林谷栄

信州の雪深い山里での四季を通じての人々の暮らしと自然の営みの中で、繰り広げられる人間模様を、村の阿弥陀堂を中心に描かれる。都会の喧噪に疲れて古里へ帰ってきた主人公と、不便ながらも、ゆったりとした生活を送る村人たち。主人公は、古里の人々との語らいの中に人生の深さを感じとってゆく。加古隆作曲の感動的な音楽をバックに、巡りくる四季



観月会

の移ろう美しい自然の風景の映像に私たちも又自らの人生を重ねあわせる。評判の映画であったが、上映期間が短かったため見逃した人たちに、この上映会は大変喜ばれた。まず、西光寺の観月会でのDVDによる鑑賞会を皮切りに、各在所の公民館に映像機器を運び鑑賞会を順次行った。各在所とも西光寺の門徒衆はもとより、他門のかたも大勢参集され、上映後は感動の嵐であった。秋の夜長をしみじみと感じ入った次第。

九月十三日西光寺 九月二十七日仏生寺 十一月一日堀田 十二月十三日波岡
十二月二十二日下上

「仏前結婚式」

十一月十六日に新しくなった阿弥陀堂では初めての仏前結婚式が執り行われた。成美町の幸正哲士君と亜香梨さんの結婚式。新郎の父が丹精して作られた大輪の菊の花とその馥郁たる香りが阿弥陀堂を埋めつくした。仏教賛歌が流れる中、本尊の前に並んだ新郎、新婦は、「仏のみ教えに従い夫婦仲むつまじく、互いにいたわり助け合ってよき家庭人、よき社会人となるよう努力します」と誓いのことばを述べた。司婚者の住職は、記念の夫婦念珠を授与して祝福した。



仏前結婚式

「除夜の鐘と年越しそば—餅かち大会—」

十二月三十一日。年末の恒例行事である除夜の鐘撞きには、西光桜を愛する会による「餅かち」大会が境内で行われ、子供と大人が一緒になって餅をかつた。各家で餅をかつことが稀になり、杵や臼で本当に餅をかつのは子供達にとって初めてであろう。興奮とどよめきの年の暮れであった。除夜の鐘を撞きに集まった大勢の子供達や近所の参詣者に、特製の「年越しそば」と「きな粉餅」が振舞われた。

「高岡市民文化賞受賞」

平成十六年三月十六日 祝賀会三月二十一日(商工ビル)
第十五回高岡市民文化賞を住職が受賞した。高岡市民文化賞は、毎年、学術研究や芸術文化、スポーツなどの部門で、高岡市出身者や高岡市にゆかりのある人で、優れた業績を上げ、地元を誇りとして高く評価された個人や団体に贈られる。今回は四名が受賞した。(4頁へ)

「阿弥陀堂の荘厳—書画の寄進—」

日本画 山田栄龍（百橋）『扉』 平成十三年高岡市民美術展日本画部門大賞受賞
書 小西徳治（小杉）『佛心』

守三郎（堀田）『無量』

嵐辰夫（堀田）『慈悲』

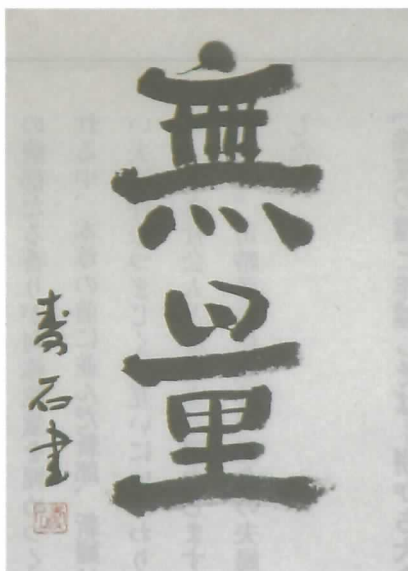
増山幸雄（金沢）『如是』『圓覚』



山田栄龍（百橋）『扉』



小西徳治（小杉）『佛心』



守三郎（堀田）『無量』



嵐辰夫（堀田）『慈悲』



増山幸雄（金沢）『如是』



増山幸雄（金沢）『圓覚』

「西光寺の四季—花でつづる—」

2月—観音椿 3月—江戸小梅 4月—越ノ菊桜 5月—五月（白） 6月—紅つつじ
8月—東光百日紅 9月—万葉萩 10月—難波山茶花—銘 四天王寺—（白） 11月—愛宕紅葉
12月—越後姫椿（赤）—銘 恵信尼



4月—越ノ菊桜



2月—観音椿



5月—五月（白）



3月—江戸小梅



9月—万葉萩



8月—東光百日紅



6月—紅つつじ



12月—越後姫椿（赤）—銘 恵信尼



11月—愛宕紅葉



10月—難波山茶花—銘 四天王寺—

百橋明穂（住職）は芸術文化部門として画家の堀浩哉氏とともに表彰された。高岡市役所で行われた授賞式は、教育長をはじめ市の幹部が見守る中で佐藤市長より市民文化賞を贈呈され、受賞者一人ずつ授賞の御礼と抱負を語るスピーチを行った。三月二十一日には、門徒世話人会の終了後、門信徒一同及び友人や近隣の人々による祝賀会が、広小路の商ビルで行われ、細呂木教育長をはじめ、三百人を超す出席があった。主催者を代表して、向井英二が祝辞を述べた。篠井洋の発声で乾杯、賑かに歓談のひとときをすごした。また住職の金沢大学付属高校時代の友人が金沢から駆けつけ弦楽四重奏の優雅な演奏で祝賀会を盛り上げた。



祝賀会



祝賀会 弦楽四重奏

「花見の茶会となべ祭り」

四月十日。西光寺阿弥陀堂新築を記念して近隣の町内より寄贈していただいた江戸彼岸枝垂れ桜を、西光桜と命名し、同時に「西光桜を愛する会」（会長母衣町松木克明）が結成された。桜の花が咲いたら花見をしようという約束のもと四月十日に花見会を行った。西光桜を移植して初めての春なので、残念ながら花は咲かなかったが、花見の茶会と、「なべ祭り」は大いに盛り上がり、舌鼓をうった。来年こそ見事な枝垂れ桜が楽しめよう。



花見の茶会となべ祭り

《話題の本》

『千の風になって』新井満 （講談社）平成十五年十一月発行 一、〇〇〇円

今話題の本である。作者不明の短い詩が深い感動を呼んでいる。亡くなった人への思いと悲しみを自然が包んでくれる。心に中に沈殿してゆく喪失の孤独感を癒してくれるのは、四季の移ろいの時間を感じさせてくれる周りに広がる大地かもしれない。一節を紹介しよう。「私のお墓の前で泣かないでください。そこに私はいません。眠ってなんかいません。千の風に、千の風になってあの大きな空を吹きわたっています。」

《行事予定》

一月一日・二日・三日	修正会		
一月八日	法話会（初お講）	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
三月八日	法話会	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
四月八日	法話会	〔講師〕光専寺	葉室俊和師
五月八日	法話会	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
六月八日	法話会	〔講師〕光専寺	葉室俊和師
七月八日	法話会	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
八月七日・八日	永代祠堂経会	〔講師〕光専寺	葉室俊和師
八月十四日・十五日	お盆（旧盆）		
九月八日	法話会	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
十月八日・九日	報恩講	〔講師〕大寶寺	龍本茂樹師
十一月八日	法話会（終いお講）	〔講師〕光専寺	葉室俊和師
十一月二十七日	御正忌	〔講師〕願浄寺	嶋 秀誠師
十二月三十一日	除夜勤行・除夜の鐘		